

山形新聞社の許可を得て掲載

新庄 高校生団体「たんぽぽくらぶ」制作中



絵本の原画を手に意気込みを語る渡辺水晶さん(中央)らたんぽぽくらぶのメンバー＝新庄市

新庄市内の高校生によるボランティア団体「たんぽぽくらぶ」が、発達障害について理解を深めてもらう絵本「ガラクタやまのひこうきさん」の制作を進めている。さまざまな障害のある動物たちが奮闘し、問題に立ち向かう物語で、クラウドファンディング(CF)で募った資金を製本費用に充て、作品を最上地域の学校や図書館に寄贈する。

たんぽぽくらぶは代表の渡辺水晶さん(17)＝新庄北高3年＝を中心に2022年11月に結成。発達障害のある弟の太極君(11)＝明倫学園6年＝について、自身や周囲の理解を深めたいとの思いがあった。現在は新庄北高、新庄南高の生徒6人が所属しており、視覚障害の感覚体験や養護教諭を招いた勉強会を開くなどしてきた。

発達障害へ理解 絵本通しもっと

誰もが生きやすい社会に CFで製本資金募る

鮮川村在住の絵本作家ラーウィーちひろさん(36)の講話を聞いた際、幼い時期から障害への理解を深める方法として絵本の可能性を感じた。ラーウィーさんに協力を依頼し、物語の構成などのアドバイスを受けた。1人1キャラクターを考え、全員で制作に取り組んでいる。絵はクレヨンや水に溶かして絵の具のような使い方でできる特殊な絵具「キットパス」を用いて描いている。

物語では、うつ症状があり、故障中の飛行機「ひこうきさん」を修理し、南の島に飛ぶことを目指す。注意欠陥多動性障害(ADHD)の主人公「うさぎさん」は行動力や集中力を生かして奮闘。自閉症の「わにさん」は難しい作業に黙々と取り組むなど、それぞれの持ち味を発揮する。ひこうきさんが再び飛ぶことはかなわないが、互いを認め合うことの大切さや、人生にはさまざまな道があることを伝えていく。

絵本はB4判32頁で、7月上旬の完成を見込む。渡辺さんは「絵本を通して誰もが生きやすい社会になればうれしい」と語る。

CFの目標金額は40万円で、23日まで募集する。寄付額は千円～3万円。返礼品として絵本などを受け取ることが出来る。寄付はCFサイト「キャンプファイヤー」のQRコードから。問い合わせは渡辺水晶さん(mizuk:0623@gmail.com)。(十勝雄)

